

◆ 山都町 有機の学校 ORGANIC SMILE ◆

～第4期生16名の入学式が開催されました～

2025年4月19日、熊本県山都町の有機農業の学校「ORGANIC SMILE」研修センターにおいて、第4期生の入学式が執り行われました。今回入学したのは16名で、山都町のみならず、熊本県内各地や福岡県、愛知県などからも志を持った受講生が集まりました。

式典では、最初に鳥越靖基校長が挨拶を行いました。また、多くの来賓のご臨席も賜り、山都町の坂本浩副町長からは、「山都町は有機」A S認証事業者数が全国最多を誇る有機農業ナンバー1の町であり、SDGs未来都市として町を挙げて有機農業や新規就農を支援している。ここで学んだ後は、有機農業者としてぜひ山都町で頑張ってください。」と激励の言葉が贈られました。また、学校を運営するNPO法人ORGANIC SMILEの理事長でもある、生活協同組合連合会アイチョイスの大宮隆博理事長からは、「生協は安心安全な野菜を届ける使命を持っているが、野菜を作るところから関わることで、生産した野菜の売り先として、中山間地域の農業を支え、卒業後のサポートにもなる。」と述べ、ORGANIC SMILEにおける生協の役割と今後の展望を話されました。式典の終わりには、鳥越校長と岸千恵理事により学校のテーマソングが披露され、会場は温かい雰囲気になりました。

ORGANIC SMILE はこれからも有機農業の発展を支え、多くの学びの場を提供してまいります。皆様とともに、持続可能な未来に向けて歩み続けていきますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします！

今年はお米の授業に 力を入れています！

日本の食文化に欠かせない「お米」。しかし、近年は作り手の不足や後継者の問題が深刻化しています。そこで、私たちは未来の米作りの担い手を育成するため、今年度より授業時間を12時間増やし、お米の授業をさらに充実させることにしました。この授業では、田植えから収穫までの一連の流れを学ぶだけでなく、土壌の管理や水のコントロール、環境との共生など、持続可能な米作りについて深く掘り下げていきます。



* 土壌分析のようす *



* 圃場授業のようす *



有機の学校
ORGANIC SMILE
春号



山都町副町長
坂本浩氏

NPO法人
ORGANIC
SMILE
理事長
大宮隆博氏



* 鳥越靖基校長の挨拶 *

「皆さん、ご入学おめでとうございます。有機農業をしていると、思考をグルグルと回転し巡らせることが多くなります。地球の中心部には、有機農業にとっても大切な鉄があると言われる、それを中心に自転・公転し、さらに私たちの地球を含む太陽系も銀河の中を高速で回り続けています。このように、小さな「円」が大きくなり、速度を増していくように、有機の学校 ORGANIC SMILEでの皆さんの学びも広がり加速していくでしょう。土を耕すことは命を耕すことであり、有機農業を学ぶということは命を学ぶということです。この学校には第1～3期生の先輩たちが作った「縁」があり、皆さんも新たな「円」を描きながら支え合い、成長していくことでしょう。楽しみながら学びを加速させ「回り続ける」ことで、不可能だと思われたことも可能になります。これから一年間、楽しみながら学びましょう。」



* 第4期生集合写真 *

[企画・編集] ORGANIC SMILE 事務局

所在地： 熊本県上益城郡山都町北中島2850-6

サイト： <https://organic-smile.org/>

問い合わせ： mail@organic-smile.org



◆有機の学校ORGANIC SMILE 卒業生へのインタビュー◆

第3期卒業生 堅尾大司さん 玲子さん

ORGANIC *Organic*
SMILE

『夫婦で山都町へ移住し、農業の道へ』

2023年、大阪から夫婦で山都町へ移住しました、堅尾大司(かたお だいじ)と申します。現在、校長の鳥越さんのもとで、2026年3月の就農を目指して研修生として学んでいます。



『意識の変化と挑戦への思い』

学校に入る前は、農業は難しく、厳しく、大変なものだというイメージが強かったのですが、今ではそれ以上に挑戦したいことがたくさんあり、早く就農して夢を実現したいという思いが日に日に強まっています。この意識の変化こそ、有機の学校がもたらしてくれた大きな魅力のひとつだと思います。

『就農後の展望と地域への貢献』

就農後は、サツマイモ、サトイモ、にんにく、コカブ、ブルーベリーの栽培を予定しています。無理に気張らず、この学校で出会った仲間とともに楽しく農業を営むことはもちろん、同じように移住して農業を志す将来の後輩たちの良い手本となるよう努力したいです。さらに、自分たちの農業を次世代へとつなげられる農家となり、移住当初に温かく迎えてくださった山都町の皆さんに、少しでも恩返しができるよう努めていきたいと思っています。まだまだ未熟ではありますが、応援していただければ幸いです。

『BLOF理論との出会い』

有機の学校への入学は校長の勧めもありましたが、決め手となったのは2024年のオープンスクールでの経験でした。その際、BLOFインストラクターの田中誠先生の「水と二酸化炭素は肥料である」という光合成の説明に強く興味を持ったことがきっかけでした。初めは理解が追いつかなかったものの、それを機に炭水化物、たんぱく質、ミネラルについての知識が加わり、難しく興味深いBLOF理論の世界にどんどん引き込まれていきました。



『BLOF理論が生む仲間とのつながり』

BLOF理論は、植物の生理に基づいているため、異なる作物を栽培する仲間とも共通の話題が多く、意見交換を通じて互いの理解を深めることができる優れたツールです。

私たち夫婦はともに学校で学び、BLOF理論の知識を深めたことで、農業計画に関する会話をスムーズにできています。「こうしよう」「ああしよう」と自由にアイデアを出し合いながら計画を立てられることを、今とても嬉しく感じています。

『研修と農業計画の実践』

現在、約5反の畑を借りることができ、研修の合間に整地などの作業を進めています。まだ研修生のため、大規模な作付けはできませんが、校長の指導のもと、就農前のリハーサルとして、自身で施肥設計や肥料購入を行い、学んだ知識を実際の圃場へと活かしていきたいと考えています。



2025年度 新入生 (4期生) 楠林 衛さんへのインタビュー

入学のきっかけは、退職後のライフスタイルが互恵的であるためには、自分だけでなく多くの方達と恵みを分かち合いたいと考えたためです。おかげさまで入学後に米米クラブを結成し、3期生の堅尾さんご夫妻と同級生の川東さんと4名のチーム

でお米作りをスタートしております。現在は学校で学んだことを田んぼで実践でき、校長や堅尾さんからの支援を受けながら確実に歩んでいます。ありがとうございます。1年学ばれた方がこんなに頼もしいとは！皆で田んぼの苗床を作り、土壌改良作業などを行い、圃場に行くのが楽しくなりました。米米クラブ結成により、予習・復習の高速回転が始まり、仲間とともに学ぶことで、個々が星のように輝き互いに影響を与えながら成長できると考えています。今後の目標は、栽培技術を身につけ、物理・生物・化学の知識を深めることです。高校時代は理数系が苦手でしたが理科の実験は好きなので、田んぼを開放研究室として活用し、農業を通じて学びたいです。先日、吉田俊道氏(菌ちゃん先生)の講演を聞き、微生物や虫たちが助け合うことや、野菜の混植組み合わせによっては、お互いに支援しあう場合もあることなども学びました。有機農業の方だけでなく、慣行農業の方々とも交流し、多くを学びながら協力し合えたらと考えております。

